

事項	リンゴ輪紋病の枝感染は7月に多く、有機銅水和剤等の防除効果が高い		
ねらい	リンゴ輪紋病の枝感染は7月に多く、その感染に対して有機銅水和剤（オキシンドー水和剤80）及びキャプタン・有機銅水和剤（オキシラン水和剤）は高い防除効果を示すことが明らかになったので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 いぼ皮病斑の感染生態</p> <p>(1) 伝染源となるいぼ皮病斑からの分生子飛散は5月下旬～10月下旬までみられ、飛散のピークは7月中旬～8月上旬である。</p> <p>(2) 新梢及び1年枝での感染は6月上旬頃から8月中旬頃まで続き、7月に最も多い。</p> <p>2 枝感染に対する各種薬剤の効果</p> <p>青森県りんご病害虫防除暦に採用され、6～7月に散布する基準薬剤のうち、有機銅水和剤（オキシンドー水和剤80）1,200倍及びキャプタン・有機銅水和剤（オキシラン水和剤）500倍は本病の枝感染に対して高い防除効果を示す。</p>		
期待される効果	いぼ皮病斑の増加に伴って、懸念されている果実腐敗（果実感染）の発生を防止できる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成23年3月1日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)を確認すること。</p> <p>3 いぼ皮病斑の発生が目立っている園地での6～7月における防除計画立案において、本病の枝感染防止に配慮した殺菌剤選択の参考にする。</p> <p>4 菌密度の低下には主幹や主枝、垂主枝等の大枝に生じたいぼ皮病斑の削り取りや2～3年生の細い被害枝の剪去・処分も重要である。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	りんご研究所 病虫部 (0172-52-2331)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成19～22年度 試験研究成績概要集（りんご研究所）		

【根拠となった主要な試験結果】

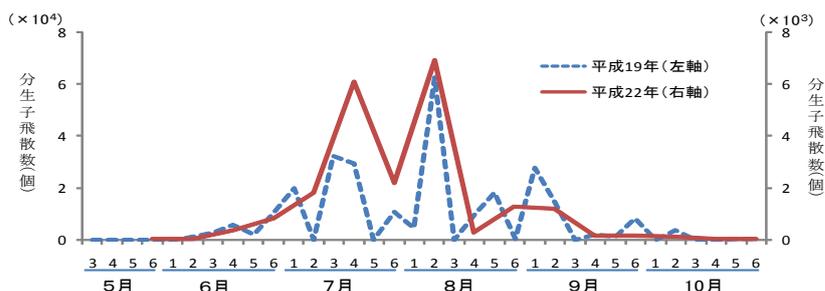


図1 リンゴ輪紋病菌の孢子飛散消長（平成19、22年 青森りんご研）
 (注) 各調査年とも、約10cmに切り揃えたいば皮病斑の罹病枝を束ねたものを伝染源とし、その直下で分生子を捕捉した。

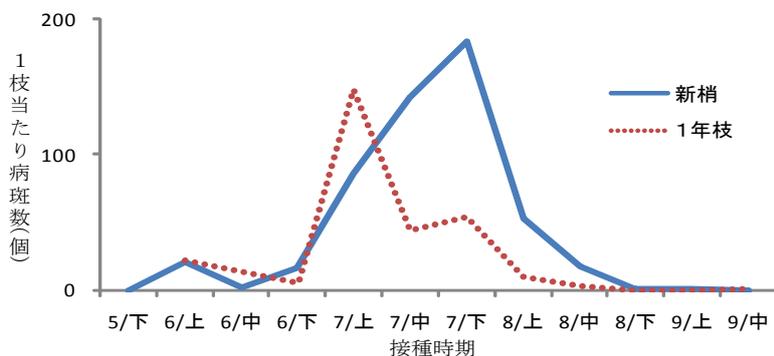


図2 枝での感染時期（平成22年 青森りんご研）

(注) 平成21年5月下旬～9月中旬、10日間隔で長さ2～3cmの2～3年生いば皮病斑の罹病枝を「ふじ」の新梢及び1年枝に結束し、自然感染させた。平成22年9月29日に各枝での発病状況を調査し、枝当たりの病斑数を算出した。

表1 枝感染に対する各種薬剤の防除効果

(平成20、22年 青森りんご研)

供試薬剤	希釈倍数 (倍)	試験1：平成20年			試験2：平成22年		
		供試本数	病斑数/新梢	防除価	供試本数	病斑数/新梢	防除価
オキシンドー水和剤80	1,200	10	0.3	99	9	17.6	93
オキシラン水和剤	500	10	1.1	95	10	8.4	96
ジマンダイセン水和剤	600	10	44.7	0	10	144.9	39
アントラコール顆粒水和剤	500	10	5.4	76	10	139.0	41
ブラウ水和剤	1,000	8	13.3	40	10	104.3	56
ユニックスZ水和剤	500	-	-	-	10	122.6	48
アリエッティC水和剤	800	-	-	-	10	128.3	46
チオノックフロアブル	500	10	8.4	62	9	105.8	55
ボルドー液(対照薬剤)	4-12式	10	1.3	94	10	20.6	91
無処理		7	22.1		10	235.8	

- (注) 1 試験1：平成19年7月7～30日まで、伝染源として「ふじ」の新梢先端付近にいば皮病罹病枝を固定し、6月26日、7月9、24日の3回、各薬剤を散布した。平成20年12月17日に発病状況を調査し、1新梢当たりの病斑数から防除価を算出した。
- 2 試験2：平成21年6月18日～7月24日まで、伝染源として「ふじ」の新梢先端付近にいば皮病罹病枝を固定し、6月17日、7月2、16日の3回、各薬剤を散布した。平成22年9月29日に発病状況を調査し、1新梢当たりの病斑数から防除価を算出した。
- 3 - は試験なし。